

桜井市仏教美術調査

美術工芸研究室

桜井市は大和でも早くから開けた土地柄で、長谷寺、大神神社、談山神社などの古社寺が存在し、これらの社寺を中心として多くの仏教美術が伝えられている。特に彫刻作品は古代から近世にまでわたり、各時代を通じて余すところがなく、中にはわが国の美術史にとって欠くことのできないすぐれたものも含まれている。桜井市内の仏教美術の調査は奈良国立博物館や当研究所によって、前記大社寺を中心に行われており、すでに国宝や重要文化財に指定されている作品も少なくないが、市内各大字の会所寺などを含む140数ヶ所の中小社寺については殆んど未調査の状態であった。当研究室では奈良県教育委員会、桜井市市史編纂室の協力を得て、これらの社寺の仏教美術について悉皆調査を行なった。調査は6月から12月まで7回にわたり、149ヶ所の1400件に及ぶ作品を対象とした。

本調査で特に注目されたのは平安時代の彫刻作品である。この時代の作品は妙円寺木造薬師如来立像、普門院及び玄資庵の木造不動明王坐像（いずれも重文）などすでに知られている作品も少なくなく、また旧栗原寺の木彫群（重文—現在長野県清水寺蔵）や大御輪寺旧蔵の木造地藏菩薩立像（国宝—法隆寺蔵）など、近年市外へ移されたものもあるが、今回の調査では50件を上廻る作品が確認された。この地の平安彫刻は地域的にみて山間部と平地部とに大別される。山間部では小夫上之坊木造十一面観音立像（像高104.5cm）、三輪平等寺木造十一面観音立像（像高105cm）、笠竹林寺木造不動明王立像（像高97.8cm）など10世紀から11世紀にかけての一木造の古像が注目され、12世紀の作品では三輪法念寺木造十一面観音立像（像高105.6cm）、高家一乗寺木造十一面観音立像（像高106.5cm）などがあり、これらはいかにもこの地で制作されたとみられる素朴な表現のものである。特にこのうち十一面観音像はいずれも中世以降、両手首が長谷寺式（左手で水瓶を執り、右手は第一指を曲げて念珠と錫杖を執る形）に改造されており、また中世以降に制作された十一面観音像の殆んどが長谷寺式であり、それらと併せ、長谷寺を中心とするこの地域の中世以降の信仰形態を知る上で興味深いものがある。平地部で注目されたのは平安後期の阿弥陀如来像である。その遺品は10数例に上り、外山報恩寺の周丈六の坐像（像高218.2cm）、慈恩寺阿弥陀堂の坐像（像高87cm）などのように、当時の中央の作風を示す寄木造の作品から、像高50cmにも満たない一木造の素朴な表現の小像まで多岐にわたっている。これらの殆んどは12世紀に制作されたもので、これらを伝える寺院が浄土宗や融通念仏宗と係りがあり、往時の浄土信仰を具体的に示す遺品として貴重な存在といえる。

この他、平安時代の作品で特に注意をひいたものに薦不動院の木造不動明王坐像（像高85cm）がある。松材、寄木造、彫眼、通形の像で、表面は古色におおわれているが、衣部に切金文様の痕跡が認められ、造像時には華麗な彩色を施していたものであろう。体軀の均斉がよく、洗練された温雅な作風を示しており、普門院、玄資庵、長谷寺、草谷寺など奈良県下の平安時代

の不動明王像がいずれも個性豊かな作風を示しているのに対し、12世紀の中央様式の珍しい作例といえる。なお、本像の火焰光や瑟瑟座も像と同時のものが伝えられている。

他の時代では、15世紀に南都一円でも活躍した宿院仏師の作品が目された。体躯の均衡がよく、しかも冴やかな刀痕を示すのが特色で、室町時代の作例中では際立った存在といえる。市内では東田薬師堂の諸像、大西帝釈堂の如来坐像などが知られ、今回の調査では新たに脇本妙楽寺の木造阿弥陀如来坐像(像高25.8cm)が頭部内の墨書銘によって天文7年(1538)源次、源四郎によって制作されたことが判明した。この他、銘記等で確認し得ないが、東新道極楽寺の木造阿弥陀如来坐像(像高42cm)、西之宮地藏寺の木造地藏菩薩半跏像(像高27cm)なども宿院仏師の作品と認められ、この派の作品が比較的当地に集中して伝わっていることがわかった。

絵画は平安時代、鎌倉時代まで遡る作品の殆んどが長谷寺や談山神社などの大社寺に集中して伝えられており、すでに知られているものが多い。今回の調査で特に注意されたものに近世の仏涅槃図がある。市内の各大字の寺院に宗派を問わず伝えられており、54点(次頁表参照)が確認された。2月17日の涅槃会に使用するもので、現在でもこれを使って涅槃会を行なっている寺院も少なくない。これらの殆んどに施入者名、結縁者名、制作年月日などが記され、当地の近世における信仰史の資料として重要なものといえよう。なお、桜井市周辺の市町村にも同様の傾向があり、それらの地域の調査も期待される。

工芸品も彫刻や絵画に劣らず多数の作品が伝えられているが、やはり近世のものが圧倒的に多い。しかし平安時代、鎌倉時代の作品も少なからず伝えられており、それらは絵画と同様、長谷寺などの大寺に集中し、制作年次を記す基準作例も含まれ、すでに重要文化財等に指定されているものも少なくない。それ等の他、今回の調査では中世の年紀を記す幾つかの作例が見出されて注目をひいた。金工品では多武峯増賀堂の銅鐘(高68.5cm)が市内最古の遺品として注目された。小形ながら姿がよく、鎌倉末期の標準的古鐘で、池の間の一区に「大聖院新熊野鐘 元亨二年一月日 鑄以之 願主幸尊」(1323年)の陽鑄銘があり、他の一区に「二尊院 応永二十七年……」(1420年)の追刻があり、元米山城大聖院の鐘としてつくられ、その後京都二尊院へ移され、後ち当山の所蔵となったことが知られる。なお、この鐘は多武峯念仏堀の経堂に所在したものである。滝倉区所有の銅鐘(高80cm)は竜頭を亡失しているのが惜しまれるが「奉鑄滝倉山鐘 応永廿六年癸卯月 十二日 勸進沙門三藏 長谷寺小聖 鑄物師 右馬四郎」(1419年)の刻銘があり、当地滝倉権現の鐘として制作されたことが知られる。この他阿部文殊院本堂正面に懸る大形の銅製鰐口(径40.6cm)は応永17年(1410)の年紀があり、鰐口の古例として貴重な存在である。その他では木造礼盤二基が夫々天板裏面に年紀を有する墨書銘があり、室町時代の基準作例に加えることとなった。山田善行寺分(幅61cm, 高18cm)は松材、黒漆塗で「多武峯妙楽寺阿中坊常住 大永五^酉六月吉日」とあり、もと妙楽寺の什物であったことが知られ、出屋敷大師堂分(幅59cm, 高18.5cm)は「天文十八年^酉 五月吉日 儲之 五本松 阿闍梨賢恵」とあり、明治21年の寄進銘が付記されている。(田中 義恭)

奈良国立文化財研究所年報

所	有	者	材質	法 量		制作年次	所	有	者	材質	法 量		制作年次							
				縦	横						縦	横								
1	倉	橋	金	福	寺	絹	148.8	89.5	天正5	28	阿	部	法	楽	寺	紙	202.2	153.2	享保15	
2	初	瀬	長	谷	寺	絹	177.5	139.0	天正9	29	西	の	宮	地	藏	寺	紙	160.5	123.5	元文2
3	阿	部	文	殊	院	絹	182.2	140.7	寛永17	30	狛	狛	長	福	寺	絹	187.8	164.5	宝曆2	
4	桜	井	妙	義	寺	紙	118.4	95.9	寛文2	31	草	川	観	音	堂	紙	127.0	97.3	宝曆3	
5	栗	原	念	仏	寺	紙	178.3	124.0	寛文8	32	北	山	興	隆	寺	紙	123.0	77.0	宝曆4	
6	三	谷	地	蔵	院	絹	146.0	88.3	寛文11	33	岩	坂	地	法	院	紙※	160.0	162.8	安永7	
7	新	屋	敷	西	善	寺	紙	120.8	88.0	延宝7	34	三	輪	念	寺	紙	118.0	58.3	天明5	
8	粟	殿	区	有	絹	絹	133.0	89.0	延宝9	35	出	雲	地	覆	寺	紙	138.2	94.3	文政6	
9	外	山	報	恩	寺	絹	143.0	117.0	天和2	36	上	之	庄	淨	福	寺	紙	123.0	88.0	天保8
10	吉	穂	極	楽	寺	紙	143.5	88.7	天和2	37	初	瀬	普	門	院	絹	152.4	118.8	安政4	
11	鹿	路	葉	師	寺	紙	160.7	115.0	天和4	38	辻	辻	積	尊	寺	紙	156.9	118.4	安政7	
12	赤	尾	光	善	寺	紙	184.7	118.0	貞享元	39	桜	井	大	願	寺	絹	144.5	115.0	寛文年間	
13	小	夫	秀	円	寺	紙	128.6	75.6	貞享3	40	小	夫	地	藏	寺	紙	126.9	73.9	江戸時代	
14	芝	慶	田	寺	絹	絹	157.5	134.0	貞享3	41	百	市	延	命	寺	紙	127.7	75.5	江戸時代	
15	大	泉	大	泉	寺	絹	206.4	136.1	元禄2	42	南	音	羽	安	楽	寺	紙	152.7	116.0	江戸時代
16	東	田	大	念	寺	紙	164.3	119.0	元禄2	43	北	音	羽	極	光	寺	紙	138.0	107.5	江戸時代
17	成	重	西	方	寺	紙	209.0	139.7	元禄4	44	竜	谷	地	藏	院	紙※	99.5	57.0	江戸時代	
18	下	田	大	日	堂	紙	184.0	129.7	元禄6	45	高	安	一	乘	寺	紙	166.3	132.0	江戸時代	
19	高	田	白	毫	寺	紙	160.0	90.5	宝永元	46	生	田	茨	田	寺	紙	182.0	135.0	江戸時代	
20	笠	地	藏	堂	紙	紙			宝永2	47	巻	の	内	九	田	寺	紙※	118.9	57.3	江戸時代
21	脇	本	妙	楽	寺	絹	171.0	130.0	宝永5	48	穴	師	常	善	寺	紙※	121.5	73.0	江戸時代	
22	今	井	満	願	寺	絹	176.0	126.4	正徳2	49	著	中	慶	運	寺	紙	153.0	128.0	江戸時代	
23	上	之	宮	宮	寺	絹	182.5	130.5	正徳2	50	葉	師	堂	平	等	寺	紙	109.8	57.5	江戸時代
24	大	豆	越	観	音	堂	紙	144.6	91.8	享保4	51	三	輪	区	有	紙	159.5	117.3	江戸時代	
25	川	合	天	王	鹿	紙	141.0	95.5	享保5	52	〃	心	念	寺	紙	160.5	118.5	江戸時代		
26	河	西	常	念	寺	紙	146.0	105.9	享保9	53	初	瀬	長	谷	寺	絹	197.0	172.0	江戸時代	
27	池	之	内	善	法	寺	紙	158.5	141.0	享保15	54	金	屋	区	有	紙	121.5	74.0	江戸時代	

仏涅槃図一覧表（材質の絹は絹本着色、紙は紙本着色の略。※印は下絵木版）

妙楽寺木造阿彌陀如来坐像

慈恩寺木造阿彌陀如来坐像

上之坊十一面観音